

令和3年度 天王寺学館高等学校 学校評価

1 めざす学校像

主体的に生きるための総合的な力の育成をめざし、狭域通信制・総合学科の通学型通信制高校として独自の学校づくりを推進する。通信部・通学部を設置し、「学びやすく・通いやすい」をモットーに、通学部では習熟度に応じたクラス編成をし、学力や生徒の状況に応じた授業を行い、通信部では生徒の生活リズムや体調に応じた時間で授業を受けることができる工夫をしている。生活リズムの確立を目指し、学びとともに、本校の校訓である「自立・自尊・自助」をもとに卒業後の進路実現を目指している。

- ① 学習指導と生活指導を両軸として、心豊かで逞しく生きる人間の育成をめざす。
- ② 授業をはじめ、特別活動や学校行事を通じて、社会で活躍できる人材の育成をめざす。
- ③ 生徒一人一人の希望進路の実現をめざし、きめ細かな指導を推進する。
- ④ 落ち着いた雰囲気の中で授業が行われ、規律ある学校生活を実践する。
- ⑤ 学校説明会、ホームページ等を通じて、情報発信を積極的に行い、中学校や地域社会から本校に対する理解と高い評価を目指す。

2 中期的目標

令和3年度 基本方針

- 1 新型コロナウイルス感染対策をしっかり行い、文部科学省・大阪府庁等からの通知を基に、感染対策を講じたうえで可能な教育活動を実施して行く。
- 2 全ての生徒の進路希望実現に向け、本校の特色を大切にし、特色ある取組みを進める。本年度令和4年度（2022年度）から始まる、新しい教育課程の取り組みや、観点別評価を進め、3年間で学校全体としてどのような生徒を育てるのか共通理解を進め深めていく。

進路指導の中期的目標と具体的な取組み

「社会における自己実現」を促す

そのために<1年次>には「職業の理解と選択」、<2年次>には「学校(学部)の理解と選択」、<3年次>には「志望校と受験校の決定」をステップとして取り組む。

<1年次>行事や日常の学習で職業観や社会人として求められる素養に関心を持たせ、情報提供を行う。進路探求の道筋は全員が共通理解し、行動素地を作る。

1年次に行う行事：①4月/マイナビ適学適職診断：アンケートに回答すると適職が複数紹介される ②1月/[職業別]進路ガイダンス：午後授業を休講

<2年次>将来の目標実現に向け最良のステップを選択させる。専門学校か大学か、大学ならどの学部か、目標実現を前提に選択を促す。

2年次に行う行事：①6月/進路ガイダンス(各分野理解) ②7月/マイナビフェスタ(2年通学部全員参加) ③1月/(受験)進路ガイダンス午後授業を休講

<3年次>志望校を目標として掲げつつ学習に励ませ、同時に模試をしっかりと受験させながら、受験校を決定させていく。前期は基礎学力の完成を目指す 夏の面談において受験校を決定、夏からは個別対応で受験型別の指導、通信部は本人の意志確認に時間がかかる可能性あり。

3年次に行う行事：①6月/[進路別対策]進路ガイダンス ②9月/(対象者)指定校推薦説明会 ③1月/共通テスト自己採点会

- 3 大学入試改革も見据えた授業改善の取組みを進める。

生徒向け授業アンケートと、教員向け学校自己評価アンケートを前期末に実施。生徒向け授業アンケートの6項目中の4項目と教員向け学校自己評価アンケートの[学習支援]の4項目は同じことを(一方は生徒目線、もう一方は教員目線で)問い、これらの回答を比較することで、授業について生徒と教員の反応を比較した。

生徒向け授業アンケート(教員の授業についての4項目)

- ・先生は授業の進度やレベルを生徒に合わせ、分かりやすく授業を進めている。
- ・先生は毎時間、授業の目標やポイント、取り組み方を説明している。
- ・先生は板書を工夫し、プリントや機器を使って効果的に教材や課題を示している。
- ・先生は生徒の意見や要望を取り入れ、授業改善に生かしている。

教員向け学校自己評価アンケート[学習支援]4項目

- ・進度やレベルを生徒の現状に合わせ、生徒状況を把握しながら授業を進めている
- ・毎時間、授業の目標や大切なポイント、取り組み方を説明している
- ・板書を工夫したり、プリントや機器を使って効果的に教材や課題を生徒に示している
- ・生徒の意見や要望を取り入れ、授業改善に生かしている

- 4 自立した学習者を育成するために重要な、主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた授業改善・授業研究）に向け、新しくまた既に導入済みのICTを活用した授業改善や学習指導の工夫を研究し可能な部分から取組を進める。

今年度は 教員のICTを利用した授業への理解を深め、生徒に対して、また教員間でのICT運用を積極化する を目標とする

そのために、グループウェア(Google for Educationの各アプリなど)、ICTを活用した教材開発と共有化を進め、授業や校務で活用し、教員及び生徒がデジタルツールに触れる機会を多く設ける

- 5 生徒募集の状況を踏まえ、一層の広報活動を教職員全員が共通理解を持ちながら進め、入学した生徒や保護者の進路・進学実績に対する満足度を高める工夫を進める。

学校説明会と編転入生の変遷について

本校では中学卒業後本校への入学を目指す中学3年生に加えて、常時編転入生を受け入れている(編入生は4月と10月の年2回)。

本校主催校内説明会：土曜日を中心に集団説明会を実施、また予約者に対する個別相談会を毎日実施、個別相談会をさらに充実させる

外部主催合同説明会：通信制高校向けを中心に、または全日制向けの合同説明会にも参加

- 6 基本的生活習慣を確立させ、規範意識を高め、安心・安全な学校づくりを一層推進する。

生徒指導週間について

年に10回(授業実施期間は毎月)生徒指導週間を設け、校舎入り口のギャラリーで声掛け指導を行っている。頭髮・服装に関して、注意指導(イエローカード)・警告指導(レッドカード)の制度を取り入れ段階を踏んだ指導を実施。

遅刻指導：時間厳守の意識を高めるために、10分以上の授業遅刻は欠席扱いにしている。通学部は毎月遅刻回数を集計(通信部は自分の登録した授業時間に登校)。

指導主体：生指導事象を単発ではなく、生徒の個性・背景を踏まえた継続的な指導のために、これまでの生徒指導部主体から当該生徒の学年教員による指導に変更。

- 7 カリキュラム・マネジメント(教育課程を軸とした学校教育の改善・充実)を学校全体で組織的に取り組んでいくことができるよう、全ての教職員が日々の授業等についても、教育課程全体の中での位置付けを意識しながら取り組み、各学年の生徒の実情等と指導内容を照らし合わせ、効果的な指導等の在り方や、授業の在り方等について校内研修等を通じて研究を重ねていく。

新入生・編転入生の背景と課題を教員全員で共有する会議の開催

<p>8 自己肯定感が低い生徒にも、小さな成功体験を積み、教育課程全体の中での位置付けを意識しながら取り組みを進め、一人一人の生徒が入学時よりも学力を伸ばし、希望する進路実現を目指す。そのためにも、天王寺学館高等学校が大切にしてきた「血の通った教育の場」の実践を進める。</p> <p>コース変更の実施：本校では生徒の希望で登校頻度(コース)・授業難度(習熟度別クラス)の変更を認めている</p> <p>通学部⇔通信部⇔メディアコース、通学部5日制⇔3日制、習熟度別クラス(特進⇔総合⇔基礎)など、</p> <p>コース変更の時期：①6月：前期中間試験後、②9月：後期開始前、③3月：前期開始前の3回。</p> <p>外部模擬試験の校内実施</p> <p>進路希望実現のために、生徒が自らの実力を把握できるよう外部模試を校内で実施している(2・3年7回/年、1年4回/年)</p>
--

3 令和3年度の取組内容及び自己評価

中期的目標と今年度の重点目標	取組計画と具体的な内容	評価指標／結果と自己評価
2 進路指導 「社会における自己実現」を促す	卒業生の進路決定状況において、進学・就職・進学浪人を省く未定者を減らす	<p>評価指標：未定者の割合が卒業生全体における20%以下</p> <p>2020(令和2)年度卒業生の進路決定状況 大学40%、専門学校21%、短大2%、就職6%、浪人12%、未定19%</p> <p>2021(令和3)年度卒業生の進路決定状況 大学41%、専門学校22%、短大2%、就職3%、浪人10%、未定22%</p> <p>自己評価：2021(令和3)年度の卒業生は2年・3年次をコロナ禍で過ごしたことが未定者増に関連しているのではないかと。</p>
3 授業改善に向けて 授業アンケート(生徒向け)、学校自己評価アンケート(教員向け)	授業アンケート(生徒向け) 学校自己評価アンケート(教員向け)の年2回実施、保護者向けアンケートの実施	<p>学校自己評価アンケート(教員向け)は2021(令和3)年度の取り組みについて実施(2022.8月)</p> <p>授業アンケート(生徒向け)¹・保護者向けアンケート²は2022(令和4)年度について実施</p> <p>結果と分析については、4を参照 (1)2022.8月、(2)2022.5月に実施)</p>
4 ICT 機器運用の活性化	・教員のICT授業への理解・対生徒、教員間でのICT運用積極化	<p>評価指標：授業以外でも教員・生徒のICTに触れる機会を増やす</p> <p>・Google for Educationのアプリを積極的に活用する</p> <p>①Gmail(教員間の資料共有・連絡) ②Classroom(生徒への連絡/クラスへの一斉配信)</p> <p>③Form(授業アンケート・保護者懇談アンケート /三者面談・生徒の行事参加申し込み受付)</p> <p>④Drive(配布物の共有)⑤Calender(授業使用のモニター予約) ⑥Meet(コロナ禍のオンライン授業)</p> <p>⑦Keepmemo(会議議事録) ⑧Document(生徒の小論文の添削)</p> <p>自己評価：生徒も教員もアプリを積極的に活用できた</p>
5 編転入生の受け入れと生徒募集の活性化	編転入生のフォローアップを通じて、生徒募集を活性化させる。転出・退学者、休学者を減らす。	<p>評価指標：生徒総数を単年度700人以上、転退学者総数40以下、休学者総数40以下を目指す。</p> <p>在籍者数の変化：2021(令和3)年度</p> <p>令和3年4月 令和4年3月</p> <p>総数582(通信部341 通学部223 メディア18)→総数688(通信部398 通学部256 メディア31)</p> <p>転退学者数</p> <p>2021(令和3)年度：転出者9 退学者8 総数17、休学者は42</p> <p>自己評価：令和3年度の転退学者は例年よりかなり少なかった。コロナ禍で登校頻度が少なく、転退学まで至らなかったのではないかと。その前2年間は以下の通りで転退学者総数の目標は40が妥当か。</p> <p>2020(令和2)年度：転出者14 退学者31 総数45、休学者は43</p> <p>2019(平成31)年度：転出者19 退学者41 総数60、休学者は44</p> <p>生徒募集活性化に向けて</p> <p>令和3年度の資料配布数 本校主催説明会232、個別相談会471、外部主催合同相談会：169、総数872 資料配布総数に対する年度末の在籍者数の割合は78.9%</p>
6 生徒の個性・背景を踏まえた継続的な生徒指導	生徒指導部主体から当該生徒の学年教員での指導へ	<p>評価指標：生徒指導の注意警告件数を年間20件以下を目指す</p> <p>令和3年度前期 注意指導・警告指導・処分件数</p> <p>注意喚起：14(頭髪・服装指導)→改善済14/警告：0/特別指導：0</p> <p>令和3年度後期</p> <p>注意喚起：7(頭髪・服装指導)→改善済7/警告：1(頭髪指導)→改善済1/特別指導：0</p> <p>自己評価：学年教員による生徒指導が後期から軌道に乗り徐々に指導の効果がでてきている</p>
7 生徒の実情等に合わせた効果的な指導に向けて	教育会議(全教員が新・編転入生の背景と課題を共有)の開催	<p>評価指標：教育会議を最低年4回実施する5月・7月・11月・1月と年4回実施</p> <p>自己評価：年4回の実施で、情報共有の必要な生徒をカバーできている</p>
8 生徒一人一人が入学時より学力伸長、希望進路実現、	自己肯定感が低い生徒に小さな成功体験を積ませる ①コース変更でコースアップ・レベルアップする生徒数増加を目指す	<p>①評価指標：ガイダンス・担任による面談の充実させ、6月にコース変更した者が9月に再度コース変更しないことを目指す。また、できるだけコース変更で登校頻度・授業難度を上げる生徒を増やしたい。</p> <p>6月のコース変更は、実際に授業を受けた結果、入学・新年度前に選択した科目が予想より難しい・易しいと感じてコースや習熟度別クラスを見直す⇒科目選択ガイダンスの充実</p> <p>9月のコース変更は、前期末の成績を受けて、コース・習熟度別クラスを見直す</p> <p>⇒科目選択ガイダンスの充実+秋季授業(午後授業の午前開講：通信部生徒が通学部授業を体験)</p> <p>3月のコース変更は、年度末の成績を受けて、コース・習熟度別クラスを見直した上で科目変更につなげる</p> <p>⇒担任の面談の充実</p> <p>自己評価：令和3年度は6月にコース変更し9月に再度コース変更した生徒2名とも変更の度に登校頻度・授業難度を下げている。また、登校頻度・授業難度を上げる変更より下げる変更の方が上回っている。コロナ禍において、対面授業が少なく、またコース変更に対して担任が十分に生徒の相談に乗れなかったことが影響しているのではないかと。</p> <p>以下参照</p>

		<p>2021(令和3)年度6月のコース変更：14名 登校頻度・授業難度を上げる変更(通信→通学：2、基礎→理系：1)3名 登校頻度・授業難度を下げる変更(通学→通信：7、通学5日→3日：3、通学→メディア：1)11名</p> <p>2021(令和3)年度9月のコース変更：39名 登校頻度・授業難度を上げる変更(通信→通学：2、通学3日→5日：1、メディア→通信：3)6名 登校頻度・授業難度を下げる変更(通学→通信：16、通学5日→3日：8、通学理系→文系：5、通学→メディア：2、通信→メディア：2)33名</p> <p>6月にコース変更して9月に再度コース変更した者：2名</p>
	②校内実施の外部模試において、当日欠席者数の減少を目指す	<p>②評価指標：希望者対象の模試において、85.0%以上の出席率を目指す。</p> <p>2021(令和3)年度校内実施の進研模試参加者の出席率 1年：81.1% 2年：66.0% 3年：83.3% 2年の出席率について 通学部全員参加の実力診断模試(11月)において十分な連絡ができていなかった(後日実施の再試験で受験)</p> <p>自己評価：本校生徒は何かしら体調不良やプレッシャーを抱えて学校へ行けなかった経験を持つ。そのため希望者対象の模試でも模試を受けるというプレッシャーで直前に体調不良になるなど出席できないという者がいる。1年次から2年次に出席率は下がり、3年次にやや向上するという傾向が見られる。特に2年次になぜ模試を校内実施しているのか、参加することによってどういう意義があるのか、継続的な参加指導で臨みたい</p>

4 【自己評価アンケートの結果と自己分析】

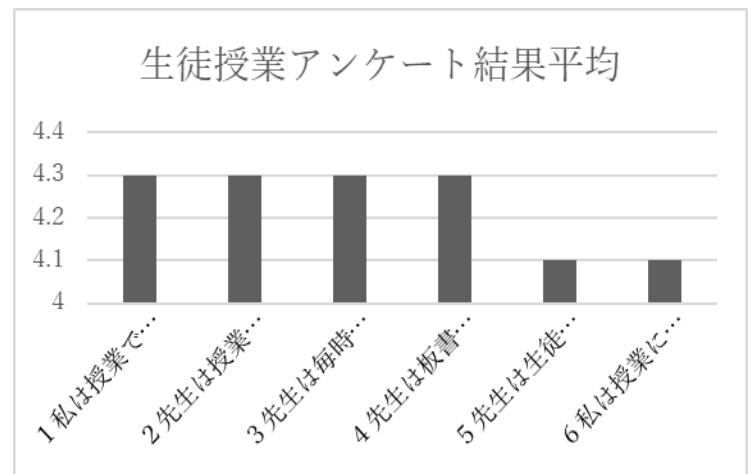
自己評価委員会 (校長・教頭・教頭・副教頭・事務長)

○生徒向け授業アンケート結果

第1回生徒向け授業アンケートは前期の最終授業出席者に Google Forms を用いて実施。

- 1 私は授業で集中して先生の話聞き、学習や実習に取り組んでいる。
- 2 先生は授業の進度やレベルを生徒に合わせ、分かりやすく授業を進めている。
- 3 先生は毎時間、授業の目標やポイント、取り組み方を説明している。
- 4 先生は板書を工夫し、プリントや機器を使って効果的に教材や課題を示している。
- 5 先生は生徒の意見や要望を取り入れ、授業改善に生かしている。
- 6 私は授業に興味・関心を持つことが出来たと感じている。

以上の質問に5段階で回答させ、「よく当てはまる：5/やや当てはまる：4/どちらとも言えない：3/あまり当てはまらない：2/まったく当てはまらない：1」のように点数化。平均を取ると、右のグラフのような結果となった。生徒は本校教員の授業を高く評価しているが、これは最終授業出席者が期末考査に向けて真面目に取り組もうとしているからと考えられる。1で生徒は授業へよく取り組んでいるが、6ではその姿勢ほどは授業への興味・関心が持てたと感じていない。2～5は教員の授業について、生徒は高く評価しているが、他項目ほどは教員が授業改善に生徒の意見や要望を取り入れ生かしていると感じていない。後期末に実施する第2回アンケートでは、5・6の項目での改善を目指したい。



○保護者向けアンケート結果

保護者向けアンケートは5月の保護者懇談会で Google Forms とアンケート用紙の両方を用いて実施。76人回答があった。保護者懇談会は午前中に1年：学年集会＋クラス懇談会、2年：クラス懇談会＋学年集会、昼に全学年対象に進路講演会、午後：3年クラス懇談会＋進路説明会という時程で実施。アンケートは1・2年は昼の進路講演会後に、3年は進路説明会後に実施した。クラス懇談会が終わる、また集会後すぐに帰宅した保護者もいてアンケート回収率はあまり高くなかった。学年集会(教務部・生徒指導部)と進路講演会(1.2年)・進路説明会(3年)の内容について、満足：5/やや満足：4/どちらでもない：3/やや不満：2/不満：1の5段階で回答を数値化し、平均を求めた。教務部の説明：4.2、生徒指導部の説明：4.3、講演会・進路説明会の内容：4.1と比較的高評価を得たが、すぐに帰宅せずアンケートに回答した積極的な保護者であったからと考えられる。年度末までに教員向けとほぼ同じボリュームで保護者向け学校自己診断アンケートを実施する。

○教員向け自己診断アンケート結果

教員向け自己診断アンケートは Google Forms により次の20項目で8月に実施。回答は、よく当てはまる：4/やや当てはまる：3/あまり当てはまらない：2/全く当てはまらない：1の4段階を点数化した。

質問内容 平均

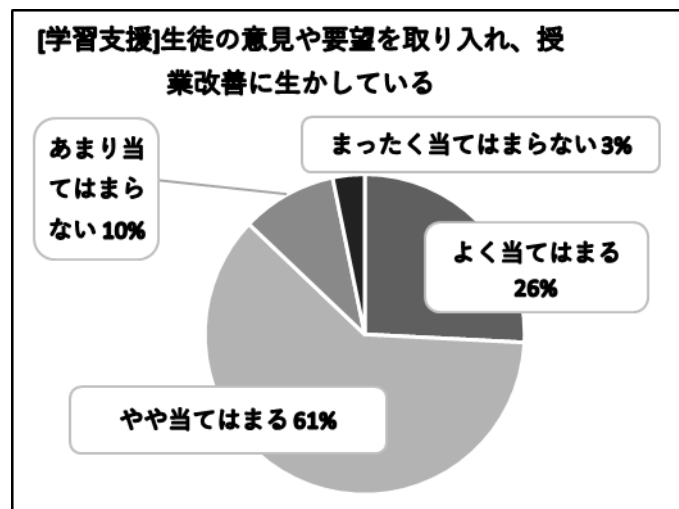
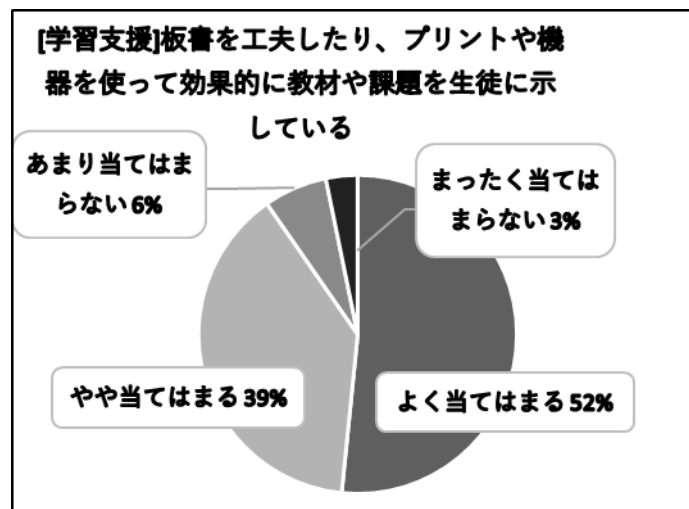
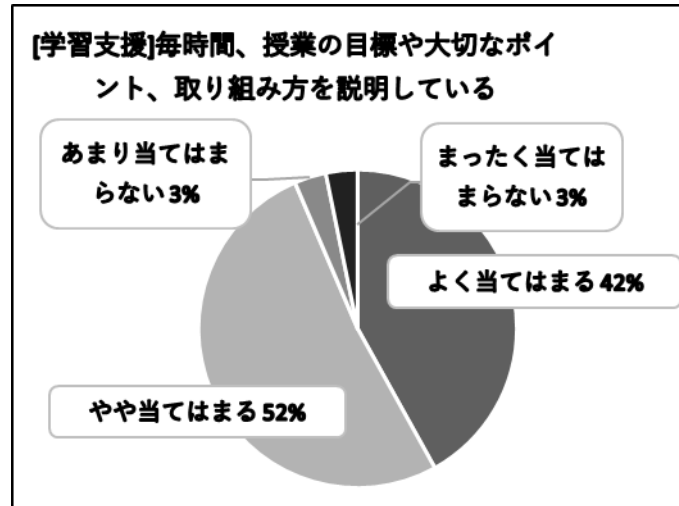
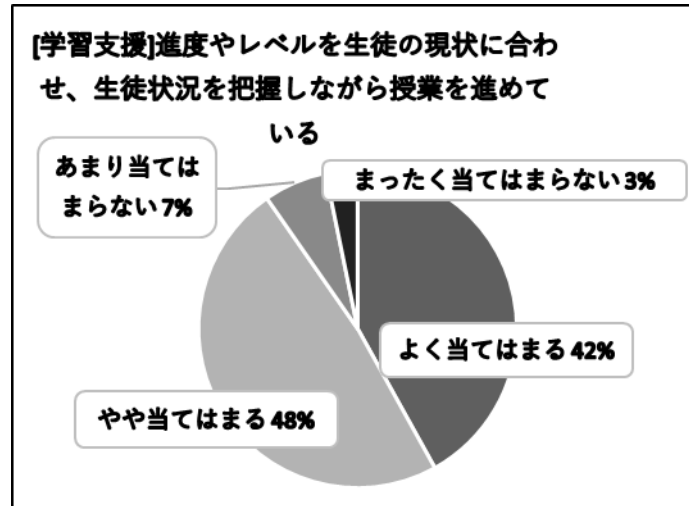
- 1 [教育目標]本校では目指す学校像や基本方針に基づいて校務に取り組んでいる：3.39
- 2 [教育目標]生徒や保護者は、本校の教育活動について理解している：3.13
- 3 [教育目標]本校には多様な生徒が入学してくるが、個々の生徒に応じて対応している：3.45
- 4 [教育目標]本校では生徒のニーズに応じて選択授業を開講して他の高校にない特色がある：3.55
- 5 [生徒支援]生徒の悩みや思いを受け止め、個々の生徒に合ったアドバイスをしている：3.45
- 6 [生徒支援]生徒が将来の職業や生き方を考えるような機会を設けている：3.03
- 7 [生徒支援]生徒や保護者に様々な機会を通して、適切な進路情報を提供している：3.23
- 8 [生徒支援]生徒が自立について学校生活の中で感じ学ぶ機会を提供している：2.81
- 9 [生徒支援]学校行事や特別活動に、生徒はいきいきと参加できている：3.16
- 10 [生徒支援]生徒は悩みについて、担任や養護教諭に相談できている：3.0
- 11 [教育活動]生徒についての情報を全員で共有し、協力して生徒に指導を行っている：3.23
- 12 [教育活動]暴力や暴言等いわゆる「いじめ行為」について全員で協力して対応する用意がある：3.23
- 13 [教育活動]地震や火災等の非常事態に対して、どのように対応するか全員で共有している：2.16
- 14 [教育活動]事務所の職員はいつも丁寧に生徒や転学希望者に対応している：3.97
- 15 [教育活動]本校にとって、卒業生と学校の繋がりを保つために同窓会という組織は必要である：2.74
- 16 [教育活動]本校にとって、保護者との意思疎通を図る上で、PTAという組織は必要である：2.29
- 17 [学習支援]進度やレベルを生徒の現状に合わせ、生徒状況を把握しながら授業を進めている：3.29
- 18 [学習支援]毎時間、授業の目標や大切なポイント、取り組み方を説明している：3.32
- 19 [学習支援]板書を工夫したり、プリントや機器を使って効果的に教材や課題を生徒に示している：3.39
- 20 [学習支援]生徒の意見や要望を取り入れ、授業改善に生かしている：3.1

[教育目標]の4項目について、教員は高く評価している。本校が「総合学科」「単位制」「通信制」の制度を生かした、科目や登校日数を生徒自身が選択できる上に、それぞれの教員が多様な授業を担当し習熟度別授業など生徒一人ひとりの状況に合わせたシステムであることを感じているからと思われる。

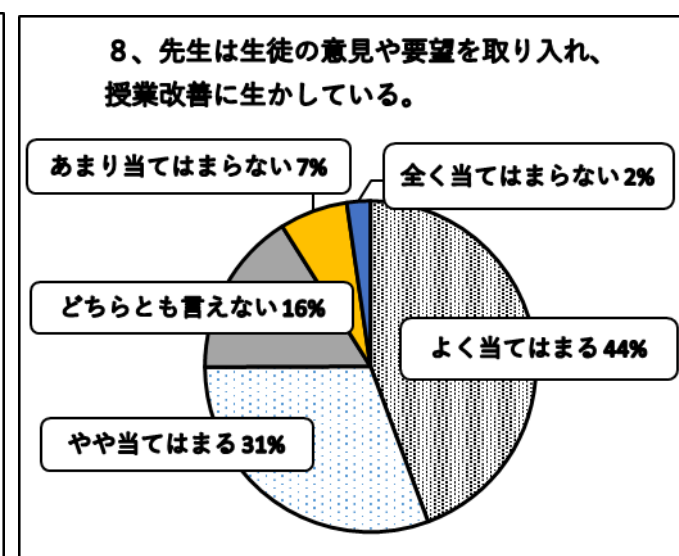
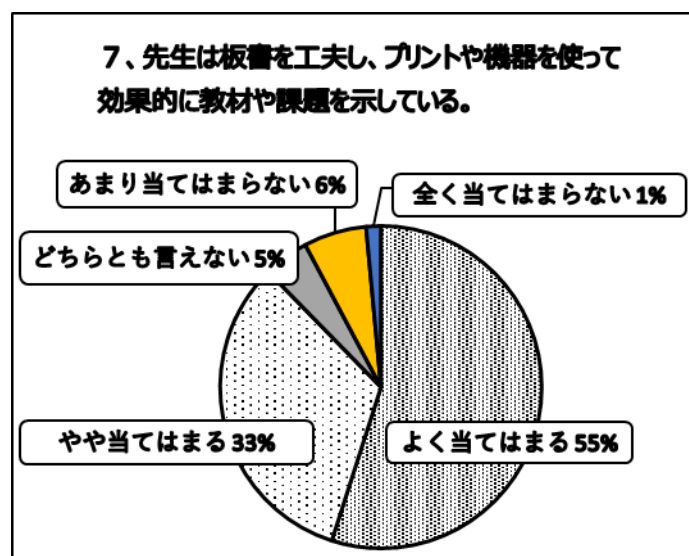
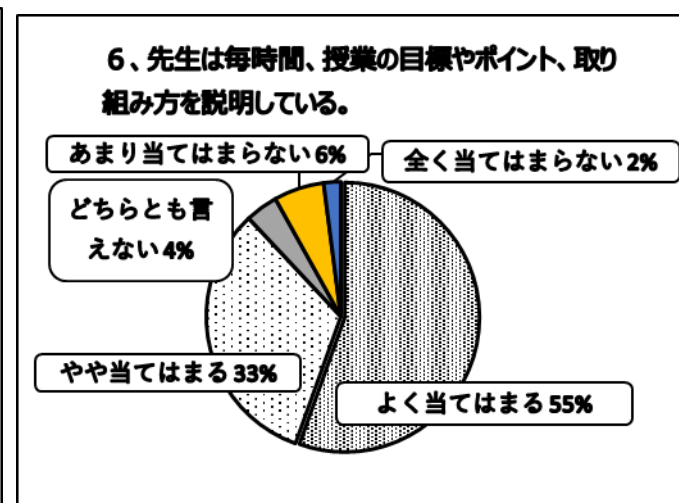
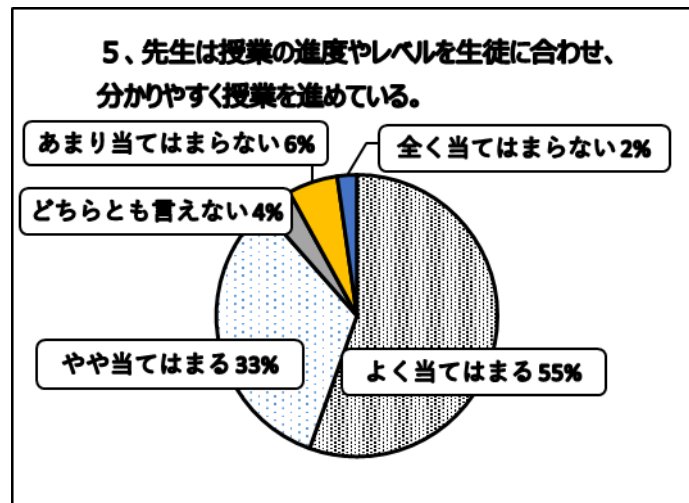
一方、[生徒支援]の4項目は[教育目標]ほど高くない。5の「生徒の悩みや思いを受け止め、個々の生徒に合ったアドバイスをしている」が高く、6～8の機会や情報の提供が低いのは、組織としてガイダンス機能はまだ発展途上で、教員個々の取り組み中心で行われているということであろう。同窓会が必要2.74、PTAは必要：2.29という結果から、今の教員集団はこれらの組織を必要と感じていないように思われる。

[学習支援]の4項目は、生徒の授業アンケート6項目の2～5と同じ内容(教員向け自己診断アンケートは4回答、生徒の授業アンケートは5回答)なので比較してみると、この4項目では生徒の授業アンケートの結果の方が教員の授業に関する自己評価より高い。有難いことではあるが、これは前期最終授業でアンケートを実施したので、出席している生徒が期末考査に向けて真面目に取り組んでいるからと思われる。アンケートに自宅で回答できるようにLINEのアプリでも配信しているが、今後はもっと周知したい。

教員向け自己診断アンケートの[学習支援]の4項目



生徒の授業アンケートの授業についての4項目の結果



5 【学校関係者評価委員会からの意見】

学校関係者評価委員会	2022(令和4)年10月20日 午後1時～3時 場所：天王寺学館高等学校 205 教室	
出席者	委員会委員	(1) 地域住民代表 1名 (2) 地元中学校関係者 1名 (3) 教育に関する有識者 1名
	学校	(4) 校長 (5) 教頭 2名 (6) 事務長
意見をいただいた項目	指標設定について	A氏…内容は良くできている。評価の目安や目標は適切である。進学もきっちりしている状況。 A氏…狭域通信制の存在はありがたい。 B氏…コロナによる指標の難しさ。長い目で見て指標を決めているので問題はないと思われる。生徒のことを良く見た丁寧な指標だと思う。
	中期的目標4について 「ICT 機器の導入」	B氏…平野区の保育所では欠席連絡を電子化して、早朝に電話対応に追われることがなくなった。高校でも導入を検討しては。空いた時間を生徒対応に向けられるのでは。
	中期的目標6について 「個性を踏まえた継続的指導」	A氏…生徒指導の数や指標は適切。実際数も非常に少なく行き届いているのだと思う。
	中期的目標8について 「生徒の自己肯定感を高める」	A氏…全国でコロナ禍のもと生徒の自己肯定感が下がっているので、「小さな成功体験」は大きな意義がある。是非、その方向で続けてもらいたい。
	教員向け自己診断アンケート16 「PTA について」	B氏…PTA の組織は保護者同士で繋がる場になるかもしれない。子どもは学校からの連絡を親に伝えない事が多い。保護者同士が繋がる場が設定できれば保護者が学校について知る機会が広がる。 C氏…保護者同士の繋がりを作るのは大切。保護者向けの授業参観を実施するのも良い。地域の人間でも実際に天王寺学館高校を見学したら、すごく良い評価をしていた。
	教員向け自己診断アンケート8 「学校で自立について学ぶ機会」	C氏…いつもと変わったことをして欲しい。地域と一緒に生徒を育てていきたい。若い子達は上の人と関わることは大切。例えば、知り合いの歌手に文化祭で、歌う機会をあげるのも良いと思う。そういったいつもと違う体験をさせて欲しい。 C氏…人の世話をすることを大切に。人の世話をすることが自分の成長につながる。
	生徒の授業アンケートと教員の授業についての自己評価の比較	A氏…理由*があるにしても生徒の授業評価は非常に高いと思う。 (*前期最終授業でアンケートを実施：調査に向け真面目に取り組む生徒がアンケートに回答) B氏…生徒の回答に肯定的な意見が多い。先生方の自己評価は謙遜なのかも。 B氏…アンケートは回を重ねて見えてくるものがある。今後も継続してアンケートを続けてもらいたい。

今後の取り組みに生かすべき頂いた意見

- ① 欠席連絡の電子化……………実施予定
- ② 保護者が繋がる場の設定……………5月の保護者懇談会でクラスごとの懇談会が保護者同志の繋がる場になっている
- ③ 保護者が学校からの連絡を受け取る機会の設定……………LINEアプリで生徒連絡と同時に保護者向けに配信中
- ④ 保護者の授業参観日の設定……………今後の検討課題